



にのみやきんじろう ひと 二宮金次郎はどんな人だったの

あ は のうそん た ひと 荒れ果てた農村を立てなおした人

あなたは、学校の校庭のすみで、背中にまきを背負い、本を読みながら歩いている姿の石像を見たことがありますか。あの石像の人が二宮金次郎です。尊敬をこめて、二宮尊徳ともいわれています。

二宮金次郎(1787~1856)は、江戸時代後期の人で、関東地方各地の農村で、荒れ果てた村を立てなおすために努力した農業政治家です。

二宮金次郎は、相模国(神奈川県)の農民の子として生まれました。酒匂川のはんらんで、一家は落ちぶれ、家族がばらばらの状態になってしまいました。その後、一生懸命に努力し、家を再びもとのようにもりかえたのです。この後、小田原藩に頼まれ、下野国(栃木県)の荒れ果てた農村を立てなおすのに努力し、成功したのです。その後も、各地の荒れた農村の立てなおしを指導しました。

二宮金次郎は、土地を開かんしたり、用水路を建設をしたりして、農地の生産力をあげ、たくさんの負債を整理して、荒れた農村の立てなおしを図ろうとしたのです。

ごうりてきせいしん と ひと 合理的精神に富んだ人

二宮金次郎は、とても合理的な考え方をする人でした。ひとりひとりが自分の財力に応じて支出計画を立てることを「分度」といい、分度生活の結果、出てきた余りを社会にもどすことを求め、これを「推攘」といいました。分度を立てて、推攘を図ることによって、人も国も立ち直ると説いたのです。この方法(仕法)は、報徳精神とよばれ、多くの弟子たちに受けつがれ、明治以降は、報徳社運動として発展しました。

(監修・田代 脩)

